

第 2 回
クリーン北広島推進審議会
議事録

令和 2 年 7 月 10 日（金）10 時開会

北広島市役所 5 階 委員会室

出席者：(委員) 石井会長・鈴木副会長・木原委員・高橋委員・長谷川委員
・見上委員・山本委員・伊藤委員・井関委員・竹内委員
(市) 高橋部長・阿部課長・長尾主査・三好主査・塚崎主任・志村主事

傍聴者：1名

1 開会

○事務局 みなさんおはようございます。それでは定刻となりましたので、ただいまから第2回クリーン北広島推進審議会を開催させていただきます。議事に入ります前にご報告をさせていただきます。本日の審議会は、委員定数10名のところ10名の出席となっておりますので、北広島市廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則第2条第5項の規定により会議が成立していることを報告いたします。

次に委員の皆様にご議事録作成に係るお願いです。本日も前回同様お手元にありますマイクを通して録音を行いますので、発言の際には会長に発言を求め、指名されましたらボタンを押してランプが点灯していることを確認のうえ発言されますようお願いいたします。なお、発言終了後はボタンを押しまして、ランプが消えていることの確認をお願いしたいと思います。それでは条例施行規則第2条第6項の規定に基づき、以後の進行は議長となります石井会長をお願いしたいと思います。石井会長よろしくをお願いいたします。

○会長 みなさんおはようございます。最近コロナのせいか時が経つのが早く、あっという間に7月になってしまいました。今回を含めてあと3回です。今日は家庭系、次回が事業系、その次が広域ということで、今日は3回のうちの1回目になります。正念場という言い方は変かもしれませんが北広島市にとってはまさに今が正念場です。ごみの減量、分別もさることながら、ボールパークが来ること、事業系の廃棄物をどうするかということ、事業系に関することは次回ですけれども、様々なシステムが変わりますね。ごみの区分の呼び方だとか袋も焼却になることで変わりますので、そっちの方も結構大変な作業がこれから何年間か続いて行きます。私が心配していることは、今までの埋め立てから焼却になってしまうと、むしろなんでもかんでも燃やしてくれる、減らすというよりは、逆に増えちゃうような気もして、すごく不安です。そのことも含めて今日は家庭系ということで、そういったことも意識しながらご議論いただければと思います。今日もよろしくをお願いいたします。

2 議事

○会長 それでは会議の次第に沿って議事を進めてまいりたいと思います。まず、本日の議事録署名委員の指名を行いたいと思います。署名委員としては、名簿順にお願いすることになっていきますので、今日は、長谷川委員と見上委員をお願いした

いと思います。よろしくお願ひいたします。また、北広島市情報公開条例第 20 条の規定で、付属機関の会議は公開するものとしたしております。今後この審議会についても原則公開したいと思ひますので、いかがでしょうか。よろしいですね。はい、ありがとうございます。それでは議事に従ひまして、1 番目第 1 回クリーン北広島推進審議会の整理についてご説明をお願ひいたします。

○事務局

前回の審議会の質疑応答等の説明

○会 長 前回のメモ、議事録のような内容ですが何かご質問はありませんか。この部分をもうちょっと知りたいですとか、ここはちょっと違うのではないかとかありませんか。今日の議論に関係するところもいくつかありますので、お気づきの点がありましたらお知らせいただければと思ひます。次に次第の 2 番目、過去の 2 回のクリーン北広島推進審議会の答申書についてご説明をお願ひいたします。

○事務局

過去の審議会の答申内容と取り組み状況及びその評価について説明

○会 長 事業系はまた次回ということですね。参考資料にありますように、平成 24 年と 28 年 3 月に答申書がでています。非常に要領よく表の形でまとめていただいたと思ひますけれども、過去にこういった議論をしてきたということ、通常だと思ひつくような、どうして行われなかったのだろうかとか、こういうことをもっと行えばいいのにと、いろいろな疑問に少しずつ答えているような内容もあろうかと思ひますが、いかがでしょうか。委員の皆様から答申内容の 4 ページ目と 5 ページ目でご質問・コメント等あればお願ひします。

○委員 A 市民参加による指導員制度の活用が、町内会からの反対のためにやっていないということですが、具体的にどういう反対意見があったのでしょうか。

○事務局 担い手不足や、そこまで協力が難しい方が多数だったと聞いております。

○会 長 あえて市民参加って書いてあるのがキーワードで、普通だと町内会の協力を呼びかけるとか、いろいろな答申内容もありましたけど、過去の審議会ではどうも町内会の高齢化が進んでいく中で、町内会にこれ以上いろいろやれと言われても厳しい町内会もあるのが大きな理由だった気がします。

○委員 B 5 ページの家庭系のごみの評価についてですが、資源ごみや生ごみの収集日を普通ごみと違う収集日に変えた方がいいと書いてあります。これは私も大賛成です。あと、普通ごみの袋はいろいろプライバシーの問題もあろうと思ひますけど、中がある程度見える半透明なピンク系の袋にするべきだと思います。見えな

いから生ごみでも何でも普通ごみに入れる人が多いと思います。中が見える場合はある程度分別することに力が入ってくるのでないかと思うので、みんなまで考えていった方がいいのかなと思います。生ごみと普通ごみの収集日を分けるとか、こういうところに力を入れて工夫しないといつまでも分別状況は改善されないと思います。ピンクの袋を半透明にすることでコストが上がるのかどうか分かりませんが、普通ごみの中の見える袋をことで、危険ごみだとかもなんでも入れていいと思っている人も改善されると思います。分別するためにはごみの袋の改正も必要かなと思います。ここは1番重要だと私は思いました。

- 会 長 今2つご意見いただいたと思います。同じ曜日である現状に関して、今後は収集日を分けるのは丸だと、かつ今のピンク色は少し中身が見づらいので、もう少し見えるような袋にしてもよいのではないかという意見ですね。
- 委員 C そもそもなんでピンク色になったのでしょうか。
- 会 長 ご存じの方いらっしゃいますか。
- 事務局 将来的には燃えるごみに近い分別区分になるものであろうということで、燃えるイメージでピンクだという理由があったようです。以上です。
- 委員 C 先ほど、最初に会長が埋め立てから焼却になったときごみが増えるとおっしゃっていました。確かにそうかもと思ったので、なおさら燃えるピンクではなく、中身が見えやすいカラー、例えば透明に近い白ですとか、中身が見えやすい半透明な色にするのがすごく大事なのではないかなと思いました。
- 会 長 そういうことを含めて今日と4回目の広域化のところで、どう変わっていけば1番いいのか議論をしたいと思います。非常にいいアイデアだと思います。
- 委員 B 過去の審議会の取組み状況の評価を見まして、いろいろ実施していることがわかりました。その中に子どもたちに向けて、学校に入り込んで、ごみとか環境問題についてやっているはずなのに、学校教育についてこの資料では記載がない様ですけど、例えば副読本とか、教育に取り組んでいることはありますか。
- 事務局 環境課の方で主体的にはなくて、教育委員会の方から環境課の方に、新しいことやっていますかとか、この数字どうですかという照会が来て、都度回答しているものがあります。環境の中身について、教育の中で、特に小学校なんかを中心に行われているかと思いますが、直接環境課の方で関わっているというよりは資料について情報提供をして関節的に行っているものと理解しています。
- 事務局 補足で説明ですけど、小中学校との協働につきましては、教育委員会も含みまして、例えば環境広場の中で環境ポスターですとか環境標語といったものを各学校に募集をして、それを出していただいて、環境ひろばというイベントの中で表彰式を行うことや、小学校の方でごみをなるべく出さない、フードロスも含めたエコクッキングですとか、リサイクルなどを含めたエコ講座なども教育委員会とともに実施しているところでございます。以上でございます。

○委員 D 前回、鹿児島県大崎町の話はずいぶんさせていただきました。それはNHKのBSの番組で、クールジャパンという番組がありまして、こちらで鹿児島県大崎町の紹介がされていました。小学生の子どもたちがジュースのパックなどをある程度すすいでから、それをゴミ処理しているということで、その大崎町の取り組みが、子どもたちがゴミ処理の重要性を理解して実践しているということがすばらしいなと思いました。子どもたちへの教育が変わってくると、家庭にも大きな影響があるのではないかと思います。

○会 長 1991年、平成3年に初めて法律上に分別、再生利用という言葉が出てきました。30年ぐらい前になります。ちょうど私が大学3年生の時でした。その時から分別をやっている、1970年代から分ければ資源、混ざればゴミという言葉はもう標語としてありまして、平成3年ごろから分ければ資源という言葉が、どんどん根付いてきました。我々が30年間やってきたのは、まさしく小学校の教育です。当時、お父さんお母さんおじさんおばさんみんな分別面倒くさいと言ってやってくれなかったです。でも、子どもたちに教えて、子どもから親に教えていくと、どんどん分別しなきゃいけないようになってきて、小学生ぐらいの子は家の影響もありますけれども、分別をよくします。僕が1番懸念しているのは中・高・大学生の教育からだんだん大人になってきて、すれてくるという大変ですが、環境教育がなくなりますね。頭としてはわかるけど、実際に体験だとか行動だとかっていう場がなくなってくるので、中・高校生ぐらいの教育をやらなきゃいけないと最近思っているところです。最近よく聞くのは中学生とかで、SDGsの取り組みをしているところです。石狩市の花川中学校とか、札幌市の東屯田中学校とかがすごく有名ですけども、学校を挙げてSDGsで環境だとか、ゴミだとかも含めて教育に入れているところもあります。ですから、今やっていることで満足せず環境教育は継続してやっとならないといけないような気がいたします。これでいいってことは多分ないと思いますが、コロナの関係で今すぐに中学校とか高校になにかやりなさいって言うても無理に決まっていますので、すぐにはいかないですけれども、そういった取り組みが大事ななという気がします。

○副会長 2つ確認したいことがあります。先ほどの普通ごみの袋ですけど、見えづらいから混ぜてしまうということが意見ありました。それから透明にしたら分別が進むという意見がありましたが、市としてそのような認識をしていますか、これ1つ質問です。それから普通ごみの袋の色がピンクなのは燃えるイメージというのが、本当にそうなのでしょうか。2つの確認です。

○事務局 普通ごみが見えづらいとは考えてないです。しかし生ごみに関しては中に見えないように混ぜて入れられるといった懸念が大きいと考えております。

燃えることをイメージしたという点については、私どもも存じ上げてない部分もございます。もうちょっと調べさせていただいてから次の回答とさせて

いただきたいと思います。以上です。

- 副会長 審議会で審議する上で事実を積み重ねていかなかったら、印象とか間違った認識の基で話進めてったら、多分ぐちゃぐちゃになっちゃうと思います。しっかりと事実なのか事実でないかを踏まえて情報提供していただきたいです。
- 会長 半透明にするのは個人のプライバシーの問題が1番大きいです。ごみの場合は中身が見えると個人のプライバシーの問題があって、透明より半透明なもの、半透明よりももうちょっと見づらいものと、注意すればする程そういう方向になってしまう傾向がありますね。半透明にしても、中身見えるようにしても、本当に分別して捨てたくないとか心に決めている人は、新聞紙に包んで生ごみとか入れちゃいますので、100%全部きれいになるというわけではないけれども、かなりの注意喚起といいますか、抑止力は期待できると思っております。
- 委員 A 普通ごみのことについてさらに思うのですが、北広島は埋め立て処理をしている実態を知らない市民も結構います。札幌とつながりのある人たちがかなり住んでいますし、札幌は焼却していますから、普通ごみにいれたら燃やしているものだと思ってごみを捨てている方も結構います。個人的にも知っている人いますが、埋め立てされることを表示することによって、埋め立てされるならやばいなとか、あまり良くないなと思う人たちがいるので、埋め立て処理されるごみですよと表記すべきではないかと、おそらく審議会のときに意見があったと思います。いろんな事情があって普通ごみという名前のまま今日に至ってということで、やはり大きな問題かなと個人的には思っています。
- 事務局 名称の方の話は先ほど回答させていただいたとおりですけど、埋め立てしているという事実を皆さんに知っていただくことで、ごみ袋のしぼる部分に、字が小さいですけども、このごみは埋め立てられますということを印刷しています。実際に袋を見ていただいて、しぼる部分で意識づけはさせていただいています。名称変えるほうが効果はあるのかなと思いますけど、今やれる範囲ではそういう取り組みもしています、ということをご報告させていただきます。
- 会長 ぼくが埋め立てごみにしたほうがいいと言った張本人です。そのとき袋にそういうことを明記すべきだという意見もありました。それはやっていただけたということで、1番大事なのはワンチャンネルだけでなく、例えばそういったことをイベントとか、いかに市民にマルチにあるチャンネルで知らしていくかということが、これまでどうだったのかなという気がいたします。もちろん広報を見られている方は知っているのでしょうけど、一部の年代の世代だけにしか伝わらない情報ではなくて、いろんな幅広い人に向けた情報発信ということで、評価のところにもありますけども、ごみの分別アプリがいいかどうかは置いて、現在行っている周知啓発の他に新たな方法を検討していく必要があるという評価の文章になっていますよね。その件についていろいろなアイデア

を、委員の皆様からのアイデアが求められているのかなという気がします。

○委員 D ポイントをまず 2 点、常識的なことだと思いますけど、北広島のホームページを見てみると、分別区分ということで「あ行」からずーっとありますよね。非常に細かくどういうことをすればいいかっていうのが書いてあります。大崎町のも私プリントアウトしてきましたけど、同じかそれ以上の厚さのごみ分別の手引きが「あ行」からずーっとありますね。大崎町の方は簡単な一覧表みたいのがありまして、北広島はあるのかなということを質問も込めて、もしなければこういったものもやはりホームページ等に用意すべきではないか、あるいはいろんなステーションとか、各自治体コミュニティセンターとか、そういうところに表としてあるべきじゃないかということが 1 つです。もう 1 つはいわゆる家庭ごみの分別、もう少し徹底するということでメッセージ、例えばその 1 つは埋め立ての計画では 6000 t だったのが、9000 t 毎年されていて予定地の年数が足りないというか、埋め立てがすごく急ピッチで、10 年も持たないような状況だということも含めて 4.5 点大事なポイントを回覧板と広報きたひろしまあたり 3、4 つのチャンネルで広報するということが 1 つあるのではないかと思います。

○会 長 前回も言いましたけど、23 年度に策定した基本計画を今回書き替えますけれども、いろんな市で計画の概要版を作って配っています。市民にこういう計画になりましたと、今埋め立て、例えば埋立地はあと何年しかもちませんよとか、何年にこうかわりますよだとかといろいろこういうタイミングでパンフレットを作っています。北広島市では計画は立派なものできていますけど、なかなか一般の市民に作った方の思いが届けられてないといえますか、伝わらないといえますか、そんなようなところも今までであった気がします。今回焼却に変わることと、それからごみの区分も変わるってことで住民説明会があと何年かしたら頻繁に行われる中で、どんな訴え方をしたら市民のみなさんに、ごみの減量だとか分別だとか、これまでしてもらえなかったことをしてもらえるようになるのか。少し工夫しないと、ピンクのやつに全部入れて焼却してくれるならいいよねと、今までより分別しなくてよくなって楽になったと思われちゃうと逆効果になっちゃうので、その辺のところ工夫しなきゃいけないかなという気はしますよね。

○委員 C 普通ごみの結ぶところに小さく書いてあるって今知りました。毎週結んでいたのになにも気づかず、今日帰ったら見たいと思いますけど、そこをもうちょっとわかるように大きくして、なおかつ「埋め立てられます」の後に、埋め立てるスペースには限りがあります、みたいな事を書いたらいかがでしょうか。

○会 長 今の話似ていますね。思いがちゃんと届くように何でもやらなきゃいけないかという反省と、それからなぜそれをやらなきゃいけないのか、そこに訴える、あるいは危機感を共有するといえますか、こうすればうまくいくという目的を共有しないといけないですね。なかなかみなさん今までやらなかった人がやっ

てみようかってならないので、そこのメッセージが大事ですね。じっくり答申書を読まれた方はわると思いますが、必ず最後に市長のリーダーシップが大事だと書かせていただいています。市長がごみ問題について市民のみなさまにメッセージを発してもらおうというのが、1ついつも答申書渡すときにお願いしていることですが、やっぱり危機感をあおるわけじゃないですが、大変だよってことを共通認識としてもたないと変わらないかなという気はしていますね。

○委員 E 私ずっと自治会環境部っていうことで、ごみのチェックをしています。すると、市民に伝わってないって思うことがたくさんあります。毎年班長さんは1年更新で代わりますが、ごみに対して関心今までなかったのかなと思う方がたくさんいらっしゃいます。毎月1回ごみのステーションをチェックしております。うちのステーションは21カ所ございます。こういうふうにチェックしてくださいって項目、分別されてないとか、収集日が違いますというお話しをすると、まず班長さんでどうチェックするのかって質問が来ます。それから埋立処理をしているっていうのはご存じない方が大半です。それにはびっくりです。一応ごみの出し方はこうってクリーンタウンきたひろしまもございますが、それはお手元にごございますよね、って聞くと、持ってらっしゃらない方が結構いらっしゃいます。あれは何年に1回配ってくださっているのでしょうか。お年寄りの方結構多いものですから、どこへやっただろうとかありますよね。若い人だったら携帯とかで見られることもできますが、環境課の努力とか、市のホームページも努力なさっていると思うのですが、ごみの検索をすると、たどり着くまで時間かかりますよね。私ニュースで見ましたけど、旭川がアプリ、ラインですぐ検索できるようになったみたいです。個人的な話ですが、子どもが旭川に住んでおまして、旭川の分別と北広島の分別が違うって話をされたので、アプリのことニュースでやっていたわよって教えてあげました、子どもは知らなかったですが。その後ダウンロードしてそれを使って調べたらわかりやすいって言っていました。発泡スチロールをどう捨てていいのかすごく悩んでいたみたいです。若い人向けにはアプリが重要だと感じます。ちなみに今お年寄りでも携帯、iPhone持っている方いますから、そういうので検索できるかと思います。もし早急に可能なことでしたらホームページをもう少しアプリのように工夫をしていただくと、若い人、ちょっとパソコンいじれる方とか見られるようになるかなと思います。

再確認ですが、ごみ分別冊子の配布をもうちょっとコンスタントに、予算とかいろいろとございますけど、何年に1回配りますとか、ほしい方は出張所とかに置いてありますよとか、周知をお願いしたいです。知らない方がたくさんです。

あと普通ごみのチェックをしておりますけど、何でも入っています。ただ本当に1番汚いのはプラスチック系です。洗わないで入れてぐちゃぐちゃというところがすごく目につきます。粗大ごみもまだ捨て方がわからなくて、普通の80

円シールとか 200 円シールを買ってペタッと貼ってステーションに出されている方が多いです。そういうことも周知されてないので、再度もう 1 回ご質問ですけど、その配布が何年に 1 回なのか教えていただきたいのと、ホームページをわかりやすくクリックができるように検討していただけるのかを教えてください。

○事務局 クリーンタウン北広島ですが、1 番新しいものが平成 28 年の 3 月に出て、その前がはっきりしないですが、24 年度頃だったかと思います。定期的に全戸配布しているわけではなく、変更が生じて、ちょっとした修正の周知では足りないような事態が生じた場合には改定をしております。ちょっとした修正というのは印刷する際に少し直すということです。全戸配布ではなくその都度 1 部ほしいというものにつきましては、環境課はもちろん各出張所等でも配付について対応しておりますが、全戸配布については今申し上げたようになっています。

○事務局 ちょっと補足ですけれども、一応クリーンタウン北広島については引越越しで北広島に来た方については必ず配布しているところですが、新しく来た方について、見ていただけないという部分については市側に問題があるのかもしれないですけども、新しく北広島に転入された方については全員に、例外としてちょっと出てすぐ戻ってきた再転入の方以外には配付はさせていただいておりますので、その部分だけ補足させていただきます。

○委員 B さっき会長がね、ごみの分別については共通の認識を持つことが大事だとおっしゃっていましたが、本当にその通りだと思います。共通認識をどのようにもってもらえるかがこれからの問題だと思います。私が思うには学校の方にもいろいろ環境課として出入りすることが多いですけども、子どもたちはしっかり分別しています。学校給食を一緒に食べる機会がありますが、そうしますともう全部、牛乳パックも開いて洗って乾かして、もう 1 人ひとりが身につけていますね。どこの学校もそうでした。やはりこれからはイベントを通して子どもから発信していくことが大事だと思いますね。実際に学校の中で取り組んで、それが家庭の方まで伝わっているかどうかはわかりませんが、子どもの力を借りるということも大事だと感じます。

それから以前にプラスチックの内容の出前講座を町内会でやったとき思いましたが、話だけじゃだめです。目で見ることが重要で、黒板にいろいろなごみの絵をさげて、どれが分別でプラスチックになるかとか、そういうものを持って町内会にいった分別の講座をあちこちで開きました。これから分別方法が変わるときに、話だけ聞いてもわからないので、絵などを持って、このものはこうだけど、こっちに分別することによって、こういうふうになるよ、そういうところを意識した説明をするべきだと思います。高齢者の皆さんはすごく興味を持っています。持っているけど、そこら辺があまりわからない。これからの講座を進める上で、そういう目を見て、みんながわかる、ただこれとこれ分けてくださ

いではなくて、分けたらこういうふうになって、資源を守っていけると、そこまで皆さんに話ししてくれればわかるのではないかなと思います。

そこで、モデルの町内会に先に取り組んでもらって、モデルの町内会から発信していくのはどうでしょうか。そういうところを1カ所作って、みんなが関心を持って行くことも大事なかなと思います。

○会 長 今トータルでいろいろ出ましたけども、後の議題でもできますので少しずつ次に移っていきたいです。この辺で1回少し切りたいと思うのですが、ホームページですね、それからアプリ、ほんとに使ってもらえるかなと思ってちょっと自信なかったですけど、今力強い言葉をいただきましたので、アプリも含めてとにかくできることは、多媒体でやっていくというようなイメージです。

それから出前講座的なものだとか、モデル町内会はどうでしょうか。ぼくは何でもかんでも市にやってくれてというのは簡単だと思いますけど、市の職員だっていっぱいいるわけじゃないから、出前講座そんないっぱいできないですよ。ぼくはやっぱり北広島市の市民団体だとかNPOだとかそういった関心のある方の力をぜひとも借りないといけないかなと、例えば小さなNPOでそんなにお金はかからない範囲で、その地域、自分の地区なのか、隣までなのかわかりませんが、そういったところで市の協力を得ながら、市の代わりに説明をするだとか、出前講座をするだとか、そういう広がりがないと、何でもかんでも市にやってください、町内会にやってくださいっていうのでは、活動が広がらないので、市民団体等の志のある方が協力し合ってやらなきゃいけない気がします。

○委員 C 私たち環境市民の会も堆肥作りに関して、あるいは埋め立て処理場がかなり逼迫していることについて、毎年のように市民リサイクル見学会を開いて最終処分場を見学しています。できれば私どものような会とか、他の会もいろいろありますので、そこと連携をし合っていつてもらいたいと思います。

それからもう1つ、市の方が大変だということはよくわかります。ボールパークは本当にみんなにとって夢のある話で、マスコミもよく取り上げてくれます。その一方で、ごみの問題となりますと、本当に汚くて、できれば目を背けたいテーマです。しかし私たちがやっている見学会で実際にたくさんのごみが埋め立てられていることを目の当たりにすると、まずいぞという気になります。ですから市として最終処分場の状態を動画かなにかで配信するような、実際に目でみられるような機会を提供してもらいたいと思っています。

○会 長 ぜひとも連携をしていろいろな情報を、今は動画だとかいろんなメディアが簡単に公開っていいですか、周知できるようになりましたのでね、工夫しながらやってないからだめだとか、そういう関係じゃなしに、お互いにいいアイデアを出し合いながらやっていけたらと思います。

○委員 C 我が生活クラブもビンとかをリユースで回収して、そのまま商品に使うとか、

環境のサステイナブル委員会の講座もありますし、ぜひ市と連携して、取り組ませていただきたいのでよろしく願いいたします。

○会 長 ごみに関心を持っている人が少ないという話がありましたが、ずっとごみの研究やってきましたけど、ごみの関心ある人がたくさんいる地域はありません。

○委員 C ごみ、環境には関心ない方が多いと思いますけど、体には関心ある方が非常に多いと思います。毎週1枚、クレジットカード1枚分のプラスチックを人間は食べているという研究結果もありますので、そういったことで自分事にするような発信をするというのはいかがでしょうか。

○会 長 関心がないからって我々は諦めちゃいけないですね。もうそれが当たり前だと思って僕は生きていますので、そういうことを前提にしながらやっちゃいけない。自分と同じ人はまずいないと思わないと、自分は関心持っているのに、どうしてこの人はって悲しくなるので関心がないのが当然としてしまっています。

○委員 B 地域の力、町内会の力はすごく大切だと思います。ひとり暮らしの方もいらっしゃるんですが、町内会には町内会の役員の他に民生委員さんとかボランティアだとかいろいろいます。ですから、町内会の中で分別について、きちっとおさえてもらって、その町内会の中で、例えば歩けない人もいるし、そういうところを見て助け合うとか、そういうことに個人ではなく、最低でも町内会の協力がなかったらごみの分別が進んでいかないと思います。全ての町内会にごみ担当はいないと思いますがうちの町内会とか、大曲地区では担当ではないけど、ごみのステーションに関心持っている人います。みんなその人を見習って、ごみの収集日にはほうきをもって片づけたり、ネットを片づけたり、そういう人が必ず町内会の中にいますよね。そういう人材を活用すればうまく分別も、今よりは少しでもよくなるのではないかなと思いますし、やっぱり町内会の力、自治会の力っていうのはやはりすごく大きいと思います。

○会 長 全ての町内会がパワーを持っているわけじゃない反面、意識のあるところはちゃんとやっていただけるということです。それから、ごみとは僕もいろんな学生とか見ていて、いろんな方と会ってきましたけど、はまる人とはまんない人がいます。はまる人はめいっぱいはまります。これは廃棄物の特徴です。中途半端な人はあんまりいないです。どっちかなんです。はまるかはまんないか。はまる人をたくさん増やしていくと広がるかなという気がします。

○委員 C はまる人のポイントってどこにあるのでしょうか。

○会 長 人の後片づけが好きな人、人の面倒見いい人が結構はまっています。

○委員 B うちの夫もそうです。定年になりましたが、まだ元気です。うちの町内会の男の人みんなですよ。嘘だと思って見にきてください。男の人がごみ出しやっていますから。旦那さんに関心持ってもらって旦那さんが自分の仕事のように分別していますから。ごみステーションに立ってみてください、男の人の捨てに来る

こと多いですからね。ですから夫婦の中でもまだ元気のある人は家庭の中で開心持ってもらったらいいのかなと思います。

○会長　じゃあ時間が参りましたので、議題の3番目、家庭ごみの減量の具体的方策について説明をお願いいたします。

○事務局

家庭系ごみの減量化に向けた具体的な減量施策について説明

○会長　非常にわかりやすい資料を作っていただいたと思います。私の方から少しだけコメントしますけれども、6ページ目の令和5年度目標と令和8年度目標って2つ設定する意味はよろしいですよね。焼却をする前と後だということで、名称も変わりますし、あるいは焼却に移る前にできるだけごみを減らしておきたいという思いがあるということです。それから1番で560とか550という数字が出ていますが、これは北海道の目標値に合わせています。ちなみに今日配付されてます令和2年度の清掃事業概要を見ますと、今この560っていう数字が、平成31年度はどれぐらいかという582.22gですね。22.22g全体的には減らさなきゃいけないという話です。それから2番ですね、家庭形資源にならないごみということで、分別をして埋め立てるものを減らしましょうということです。これが今日の議論になっています。事業系は次回の議論になります。

それからコメントですけど、生ごみ排出量を増加させるって違和感があります。例えば生ごみ収集量を増加させるだとか、生ごみ分別収集量にすると、分別感が出てきていいかもしれませんね。このままだとフードロスだとかが考慮されなくなっちゃいますね。ですから生ごみ排出量を145%に増加させるっていうのは一見悪くはないですけども、これからフードロスがどんどん進んできたときに必ずしもこの量だけが増えればいいのかではなくなります。

そんなところで今日ご議論をいただきたいのは、前回もありましたけども、何をすると35グラム以上減量できるかで、前回もお話ししましたけども、生ごみ、紙、プラみたいなものの協力率が上がっていくと、資源にならないごみの量は減っていくはずですよ。今日8ページ目だとか、9ページ目というような具体的な地区ごとの数字もでてきていますので、私は北広島市に住んでございませぬので土地勘というものがわかりませんが、皆さんのほうが詳しいと思いますので、具体的なアイデアをお聞かせいただければと思いますけどもいかがでしょうか。

○委員A　基本的なことを教えていただきたいです。7ページの組成分析の円グラフで普通ごみ重量6265トンとありますが、前回の質疑応答Q&Aのところの2ページ目の最終処分場に関するところで、毎年6000トン程度埋立量を計画していましたが実績値としては9000トン程度と説明があります。この6265トンというの

はどういうことでしょうか。

○会 長 これは家庭系普通ごみの数字で、破碎できないもの、粗大ごみだとか自己搬入ごみ含めて埋立量というのは 9000 t ありますということです。家庭系の全埋立量が 9000 トンにとって意味じゃないですか。

○委員 E ちょっと質問です。勉強不足だとは思いますが、ミックスペーパーは広域になっても、このまま続けて行くのでしょうか。

あと、北広は札幌から入っていらっしゃる方がずいぶん多いので、ごみの捨て方はどちらかといえば札幌の考えでいらっしゃる方が結構多いかなと思います。札幌の可燃ごみは生ごみもいれていますよね。今度広域になっても、生ごみは生ごみで収集しますよね。そういう感覚として、可燃というのは一般的にどういうものになるのか、その 2 点教えていただきたいかなと、感覚的に札幌の考えが偏ってしまっているのか、まず生ごみだけ抜くのか。あと他の小さいものとかそういうごみは全部可燃として燃やせるのか、ちょっとお聞きしたいなど。

○事務局 今の質問ですけれども、まずミックスペーパーについてはそのまま拠点で回収します。生ごみについてですが、札幌市は燃やしていますし、他の自治体でも燃やすところが多いかと思えます。焼却炉自体は生ごみを燃やせるようになっていますが、北広島市は下水処理センターがありますので、生ごみにつきましては、分別していただいて、今までどおり出していただく形で考えております。

それから、燃やせるごみ、燃やせないごみ、可燃と不燃について細かい部分はまだ決まっていない部分がありますけれども、一般的な普通ごみについては基本的に可燃ごみになると思えます。ただ、破碎できないごみは、例えば布類ですと、燃やせるものになるとか、コードとか鉄の部分では、燃やせない部分が出るとか、細かい部分は変わってくると考えております。以上です。

○会 長 そのあたりの周知がすごく大事ですよ。もうちょっとこう変わりますよって資料作ってくればよかったですね。基本的には今までのやり方を踏襲しながら、今まで埋め立て地にいていたものを燃やしましょうってことなので、可燃ごみになったからといって他の自治体の可燃ごみと同じというわけではないということ、北広島ルールでやるということになるかと思えます。

○委員 B 6 ページの下のとこ、表現が非常にわかりやすいなと思って見ていました。例えば 35 グラムってどれだけになるのかなといたら、A4 が 7 枚で 35 グラムですよ。こんなもんかと私思いました。ものに例えた表現というのはものすごくわかりやすいですね。それだったらミックスペーパーをもっと増やせるように、紙類をどんどん分けようって気になります。ミックスペーパーの袋っていうのは無料ですよ。ですからミックスペーパーの方に紙のものは全部分別すれば簡単にできるのかなと私思いました。それに合わせて生ごみも減らしていくためにはこのミックスペーパーの袋は無料で配布されますけども、生ごみの袋も

無償化にできないのかなって。Q&Aに生ごみの無償化は難しいとかどうのこうのって書いてありますけど、ミックスペーパーの袋はみんなわざわざもらいにいっています。1回1人2枚です。でもみんな足運んでいっていますよ。みんな無料だから入れるのではないかと思います。それだったら、生ごみは無料で袋を提供してもらえたらもっとみんな生ごみの方の袋に走って行って分別するのかなと単純に思いました。

○会 長 生ごみ袋の無料化についてはずいぶん前から生ごみを出しやすい環境にすべきだということで、袋を小さく、無料にすべきだという意見もありながら、下水処理施設の関係だとか、あるいはそっちの方に異物が入ると下水処理施設に迷惑がかかるという微妙なバランスのところなかなか進んでなくて、今のままで、ちゃんと分別してもらおうということが正当なやり方だろうということで、そこにつっぱしってきたという経緯がありますけどもいかがですか。

○委員 A 例えば名前を書く、黄色いごみ袋に名前を書いたら無料にするとどうかという意見が私たちの環境市民の会の中でありました。名前を書くことによって責任を持って出すことになる。異物が入っていたら、当然ペナルティか何か課せられるような形にして、名前を書いて出すような制度はできないものでしょうか。ただ、中身に本当に異物があるかないかってわかるのかどうかという懸念はありますけれども、自分の名前を書いて出すことは、自分で責任もって出すことになるかなという意見がありました。

○委員 D 関連しまして、先進地である大崎町は指定袋で名前を書きます。

発言したついでにもう1つ、先ほど1枚の写真でこういう表が大崎町の場合はあると言いましたけれども、実はさらに細分化したのも写真で、例えば古着布類ってこういう写真で各カテゴリーに渡って見せていますね。先ほどちょっと出た話にもありますけれども、市役所などでこういう写真をポスター的にアピールすると、市民の関心を呼ぶのかなと思います。以上です。

○会 長 記名という話ですが、いくつかずっと議論してきた段階と方向性といろいろあってですね、前回のこの答申にはかなりその辺を厳しく書いて、こういうこともありえるぞということで、抑止力も含めてあえて厳しいことを書いたらどうかということでした。ちょっと今読みますね。「状況によっては分別の悪い地区の全世帯を対象に市職員が個別訪問し実態の聴き取りや啓発を行うことも効果的であると考えられる」と、これかなり厳しい言い方ですよ。それからですね、もう1つ言い方の厳しいところがありましてですね、「普通ごみの中に生ごみが入っていることが確認できれば不適正ごみとして取り扱う」ようは持ってかないってことですね。さらに「そのような状況が続いた場合には開封調査を実施することなども必要になってくるのではないかと考える」って書いてあります。開封調査ってまさしく出元を探すってことですね。名前の書いたものを探して、そ

のうちにいって、ちゃんとやってくださいということですよ。そこまでいかない前に名前も書いて抑止力をちらつかせながら、市民の皆様により一層の責任感を持って排出してもらえかっていうところが問われていると思います。

○委員 B 名前を書くことに対して私が思うのは、自分の出したごみに責任を持って当然のことですけども、名前を書かせる方法ではなかなか協力を得られないと思います。私が思うには、町内会のシールを作ってもらって、町内会はそれを住民にあたるようにして、普通ごみだけはそのシールを貼って出す。そしたら自分の住んでいる町内のごみだなどということがわかりますね。それぐらいの方法も1つかなと思います。地区となったら広過ぎるかなと思いました。

○委員 C 話が変わっちゃいますが、生ごみを増やすので例えば、市が実験的に畑とかでコンポストで野菜を作ってそれを実際にどこかの小学校とか、高齢者施設とか食べてもらうとか、あとは野菜を育てるのをYouTubeとかに流すのはどうでしょう。例えば環境課のハヤシさんの畑作りみたいな、実際にいる人が作っている様子を動画とかにあげたら楽しいですし、生ごみはごみじゃなくて、栄養になるのか、みたいなのが子どもにも大人にもわかりやすいかなと思いました。

○会 長 今ポンポンと話が飛んじゃいましたけども、記名っていう話と町内会のシールっていう話と生ごみは分別するのがルールだということをこえて、資源になるということをアピールしたほうがいいっていうご意見だったと思います。町内会でシール貼ることは悪くはないですけども、どっちかという町内会以外の方はここに捨てるなって言っているようなイメージに捉えちゃう気がしますね。要するに車乗ってポイって置いてく人がいなくなる。町内会以外の方がそこで捨てられなくなる抑止力になって、分別をちゃんとしようっていうふうに本当に働いてくれるのかどうかと個人的に思いました。それから生ごみの資源化は、下水処理場でできた最後の生ごみを、メタン発酵させてできた堆肥はちゃんと全部緑地還元されているはずですよ。北広島市はすごいですよ。そういうところをもうちょっとアピールするべきですね。ちなみに緑地還元先っていうのは一般家庭でしょうか。それともみんな農家さんですか。両方ですか。

○事務局 一般家庭でも使われているので、両方です。

○会 長 そういった事例をもうちょっとアピールしてちゃんと使えますよって周知したいですね。一般の方は取りに行けますか。

○事務局 配布の時期がありまして、その時期に取りに来られる方が多数です。

○会 長 堆肥だけで全部鉢に入れちゃったら肥料過多で、普通の土にそれを混ぜて使う。ちゃんと使えば普通の一般家庭でもおいしい野菜たくさんできます。あんまりそういうアピールとかされてないですよ、今までね。

○事務局 適宜アピールはしています。あらゆる周知はしていますが、届かない方にはなかなか届かない状況で、いろいろ考えながら実行しているところです。

- 会 長 個別の家での排出抑制でいえば、庭先のコンポストだとかあるいは段ボール堆肥化とか、今あまり使っている方少ないけど、生ごみの乾燥期みたいな機械を入れている家庭もありまして、助成しているところもあるっていえばあるでしょうけどね。その辺をどう考えていくかというところですね。
- 委員 A 懲罰的なやり方よりも、できればやった方が自分のためになるというメリットといいますか、利益になるというような方向に持っていく PR の仕方をやった方がいいのではないかと思います。具体的に言いますと、ごみを減らすということはお金が貯まるし健康にもなると、何故かというところごみになるようなものは買わないようになります。必要なものしか買わないようになれば、自ずと貯まっていって、生ごみを堆肥にして畑に還元すると豊かな栄養がある野菜ができます。それは健康にも繋がりますし、若返ります。というプラスになる話をもっと PR していったらどうかと思います。
- 委員 B こういう運動を進めていくためには、個人ではなく、市だけでもなく、会長がおっしゃっていましたが、町内会とか団体の力を借りて広めていくことが大事だと思います。いろいろな団体がありまして、うちの団体もそうですけども、ごみから何から全般の運動をしていますので、ぜひこういう変化の時期にはうちの団体でも取り上げて市民の皆さんにわかりやすくできるような啓発運動をしていきたいと思います。そういう団体っていっぱいあると思います。団体の力って非常に大きいので、ごみ処理のシステムが大きく変わるときには、力になると思うのでたくさんの団体に呼びかけて発信していった方がいいと思います。
- 副会長 先ほどのアプリの件、すごく賛成です。ごみを分別しようとして、ホームページを見ようと立ち上げてなかなか見つからないです。北広島の場合、すばらしい HP ですが、見たいところまで行き着く間に「あれ、なに捨てるんだったけな？」って、そこでやめちゃいますね。ところがぼく札幌市民ですけど、札幌市のホームページを見ると、アプリダウンロードしてくださいってあります。私もダウンロードしました。すると、これどう捨てるのかなと思ったら、すぐわかります。意識高い系の方は、出前講座とか出てきますけど、今まで問題だったのは出前講座にも出てこない意識の低い人をどうするかということだったと思います。アプリを使うことで、意識が低い人にもアピールできるかなと、実際私がそうでしたので、このごみどうだったかなとパッとみてこれは燃えるごみだとなってほしいです。あと私も大学で教えていますが、学生が分別できないと皆さんからお叱りを受けますけど、学生も何かあったらすぐ見ます。わからないから分別しないという気がしました。他の自治体でもアプリを結構導入していますので、北広島で新規にアプリを導入する際には余りコストかからないのかなと、他の自治体のものちょっと作りかえればいいのかという気がします。
- それからちょっと話が変わりますが、家庭にごみになるものを持ち込まな

いということで、学校の場合もうタブレットにしちゃって、プリントを渡さないという取り組みも有効じゃないかなと、ここの審議会で言ってもわかんないかもかもしれませんけど、デジタル化というのがキーワードです。それによって紙そのものを使わないという世の中を推進することも大事なかなと考えています。

○会 長 アプリのお話と、いろいろなメディアの年代の人にやるってことでした。大学生に関していうと、もう1つお願いしたいのは、役所にいかないで、北広島市内に住んでいる大学生がいらっしゃると思います。そういう方々はごみの分別の仕方を大家さんに聞かないとわからないですよ。そういった大家さんとか管理会社の方々に協力をいただく必要があるのかなと思いました。

それからペーパーレス時代に関しては OA 機器が増えるとむしろ紙が増えるという話があるなど、いろいろ問題がありますけども、今回コロナの問題もあって、紙の使い方がずいぶん変わってきました。事業系の紙が主にこれからターゲットになるのかなという気もしますので、また事業系のところでも同じようなペーパーレスの話ができればいいかなというふうに思います。

○委員 C アプリはすごく助かるかなと思います。いろんな場所とか公共施設とか、ごみステーションとかに QR コードをのせてもらって、それでパッとダウンロードできて、調べられるようにしていただけたら助かりますし、またそのアプリをどういう形で作るのか、予算がいくらとかわからないですけど、そのアプリで調べてもらうほど、木を植えていくとか、友だちが検索サイトで調べてくれたらその分の木を植えるっていうアプリをクラウドファンディングで作っていますけど、そういったアプリを作ったら市のアピールにもなりますし、ボールパーク作るのに森林が減るって心配している方も安心材料になるし、いいかなと思います。

○会 長 ありがとうございます。フィードバックをしようっていうことですよ。自分の貢献が目に見えるといいますかね、そんなようなことを1つ考えて仕掛けとして考えてもらうと非常にいいかということですよ。

○委員 B 現代社会でいろいろな情報システムはありますがけれども、高齢者はついていきません。皆さんね、ホームページとかいろいろ言っていますが、できません。難しくても情報入ってこないです。市の広報紙だとかがきたら一生懸命高齢者の方見えていますよ。今の情報システムで、社会の進化でそういうものも必要ですけども、でもそれは一部であって、市民の皆さん高齢者から、いろんな方がいらっしゃいます。その人にまで情報が届くようにしていただきたいです。

○会 長 今の話は全部アプリにしようとか、全部デジタルにしようとか言っている話ではなくて、とにかく多チャンネル、いろんな媒体でいろんな人に満遍なく届くような工夫をして、特に今まで足りなかったところに関しては、アプリが有効ではないかという議論ですので、けして紙がなくなって、高齢者が小さな文字で見なきゃいけないとかってことはございません。

○委員 E アプリの件で、どうしてそう思ったかという、町内会で皆さん分別ができなくて困って、変な入れ方をしています。お年寄りだったら分別の仕方がわかってないので、ピンクの袋にいれれば何でもっていうわけではないですけど、プラスチックでもなんでもそういうところに入れてたりとか、プラスチックでも商品としてのプラスチック、おもちゃとかだめですよって書いていますけど、お弁当なのか、タッパーとかそういうお弁当箱とかもいれたりとか、透明の袋に入れたりとかそういう方が結構多いです。そういうのは町内会でいろんなごみの問題のお話をする時に、初めて知ったという方が結構いらっしゃいます。うちは年寄りの多い町内会で、男性の役員の方が結構多いです。始めてごみの分別してみたとか、奥さんのお手伝いしたとか、ちょっと寂しいですが、お一人になられたとかそういうので、今まで分別したことない、分別をどういうふうにしていいのかわかって区分けがわからないって方がいますよ。アプリができれば、若い人にも知っていただけるし、悪いごみがでるのは分別の仕方がわからないことです。町内会でもっと働かなきゃいけないなと思いますが、分別の仕方の方法を再度勉強し直さなきゃ、住民の方たちも上手にごみは出せないかなと思います。

あとミックスペーパーの件ですが、ミックスペーパーを置く場所というのが出張所とか、市役所とか、数カ所に限られて、お年寄りの方や荷物を持って歩けない方々が拠点まで届けにいくっていうのが大変です。焼却になったときにもミックスペーパーが続行されるというのであれば、収集方法、場所ももう少し検討できないのかなと思います。紙類は何かあったら困るので人のいるところに、管理できるところに置いていると思います。例えば集会所とかは管理者がいないので、常に管理している人がいないところでは収集できないでしょうけど、定期的に収集してくれる曜日を決めていただければ、出す方がもっと増えるかなって、そうすれば、数字はぐっと下がると思うのですがもいかがでしょうか。

○会 長 ミックスペーパーの拠点回収の収集の配置については今まさしくおっしゃる通りで、検討する必要があるかなと思います。数を増やす、あるいは場所が足りない地域があればそういったところにやっていくと。それから、分別の仕方というものをちゃんと教えていかなきゃいけないと、指導してアピールしなきゃいけないと、まさしくそのとおりですね。わかっている人にとっては当たり前ですけど、わかってない人にとっては難しいですよ。まずごみ箱を作るところから始めなきゃいけないですね。それから捨てるって感覚じゃなくて、ものを片づけるという感覚にならないとなかなか分別ってできないので、そういった感覚から教えないといけないと思います。

○委員 A ミックスペーパーに関してなんですけど、どうしても紙は結構重くなってしまいます。高齢の方は、拠点まで持っていくのが大変億劫になってしまう。それじゃ普通ごみで出してしまうかということになっているかだと思います。そこを

何とかできないでしょうか。例えば集団資源回収の場合は、補助金が出ています。ミックスペーパーも町内会に集めて出せるような方法はないのでしょうか。

○会 長 それも前やりましたね。今集めている古紙の幅を広げて業者さんがもっていらもらえるかという話と、者さんによって集めている紙の範囲が少しずつ違って調整が難しいという話も聞いたことがあります。いずれにせよ、ミックスペーパーをどうやっていくかはこれからの大きな問題になると思います。

次に最後の資料で10ページ目があるので説明してもらう前にちょっとコメントだけ。9ページ目で先ほど事務局の方から水土地区の方は資源の集まり方が、生ごみは少ないけれどもトータルは上記4品目の年間1人あたりの量の合計が少ないですよという話がありました。ぼく朝来て数字見ていましたけど、この数字は複雑で、例えば団地地区は昔から団地に住まれていた方で、市の収集を第1に考えていて、例えば生ごみの協力率も他のところ比べるといいですよ。28キロ、それから集団資源回収47キログラムということで町内会がまだ機能しているというようなイメージをとります。一方で水土地区に関しては確かに生ごみが少ないので協力率悪いのかなという反面1人当たりの年間集団資源回収量が29と少ない。これどういうことかなと考えました。例えば拠点回収のミックスペーパーはデータに入っていない話でしたので、おそらく水土地区の方は集団資源回収に出せそうなものを集団回収ではなくてミックスペーパーや民間のところに、新聞だとか雑誌だとかを出している可能性が高い、市に出していない可能性が高いので1人当たりの4品目の年間の量が小さい。かなりごみの出し方、行動が団地地区と水土地区では違うのかなというのがぼくの感覚なので、この値が少ないからといって水土地区のごみの量が少ないという訳では必ずしもなくて、どこに出しているかがちょっと違うという認識を持ちました。ほんとにやろうとしたら普通ごみの月木地区、火金地区、水土地区の組成分析それぞれやってみないと何がネックになってその地域に特徴があるかはわからないかなという気がいたしました。ただ生ごみだけはみんなが食事すれば出てくる量は同じなので、余程庭のコンポストとかでたくさんやらない限りは、ここまで差が出ないので、水土地区は若干協率悪いという気はいたします。コメントでした。

最後ですね、今いただいたコメントも含めまして、市で行うことを今検討している内容についてご説明いただきたいと思います。

○事務局

市として行うことを検討している家庭系ごみの減量施策について説明

○会 長 今までの議論の中で出てきたことも多数あると思います。この方向で今考えていますよ、ということですね。なにかご質問とか、コメントとかありますか。

いただいた意見を反映させて、答申の中でまとめていくということであります。

○委員 B 生ごみがたくさん混入している場合は置いていくのは冬季間のみ、ということですが、夏の間は全然取り組まれないですか。

○会 長 夏はどうでしょうか。

○事務局 夏季に検討するかという部分ですが、冬季はにおいが少ないので、そこから始めて状況等を見て、そこから先は検討していく形になるかと思えます。まずは1番影響が少ない冬季から始めるべきではないかという考え方です。以上です

○会 長 最初から冬季しかやりませんよ、という意味ではなくて、冬季から始めてみるということで、今まで何でもかんでも持ってきたものを、そうではないと市としてアピールしようと、ここが1番の大きな狙いだということになります。

○委員 D ここに書かれている市として行う施策は基本的に賛成です。基本的に賛成ですが結局生ごみと普通ごみを混在させてしまうのは、面倒くさいという心理が大きいと思えます。先ほど話に出た名前を記載するということが、かなり劇的な変化ですが、決して非常識なことではないということから、それを施策として、市として検討していくのはどうなのかということを知りたいと思えます。

○会 長 こういう自治体みたことあります。袋には記載をする欄だけあります。あるけど実際あんまり名前書いてないです。ただしいつでも名前書かせるよっていう形で、実際に分別が悪いところは名前書かせる自治体さんもあります。袋には名前を書く欄だけ作ってくと、そんなような自治体さんもないことはないです。

皆さんにちょっと聞いたかったのは、自己搬入量に関してですが、皆さん自己搬入、直接クリーンセンターにごみをお持ちになったことありますか。

○委員 E 今ちょうど質問しようかなと思ったところですが、私経験ございます。何回か家の整理をして棚とかごちゃごちゃって要らないものたくさんあって、車に載せて、持っていたこと何回かございます。これを明確にというのがどのくらいの明確なのかわからないですが、ほんとに自転車だけもっていったとか、テーブル持っていたとか、そういうようなのは明確にできるかと思うのですが、物置を整理したりなんかしたら、明確にされたら分別表を見てもわからないような位のもの、古くからのものがございます。それよりも値段を上げるってというのはどうでしょうか。市民としてはつらい部分というか、なるべくならこの値段でずっと押さえていただけると幸いかなと思えますが、この明確化というのはどこまでの明確って思ってるのか。引越してきて要らなくなったものをコールセンターに頼むのではなくて、自分で持っていく方が早いと思ってる方とかいらっしゃいます。そのこと知りたいと思えます。

○会 長 詳しく説明してもらったほうがいいかな。背景も含めてお願いいたします。

○事務局 今のお話ですが、まず直接搬入に対して、受け入れ基準を明確化するところですが、これも本当に程度が大きくぶれるとどうですか、本当にだめ

ですよ、というのに近いような形で制限するものもあれば、ちゃんと分別してもらえないと受け入れられないですというものもあります。資源ごみは分けてくださいとかっていうレベルなのであればきつとご理解いただいているのかとは思いますが。例えば、ペットボトルは洗ってくださってというような、ごみステーションと同じようなルールづけというのがなくはないです。クリーンセンターいまは受け入れ基準がなくはないですけれども、実際には納屋整理して持ってきたという方に対して、分別されてないから受け入れません、という徹底した態度はとっていないのが現状で、これがあまりにも常態化されてくと、何でも受け入れてくれると、便利といえどももちろん便利ですけども、あんまり便利過ぎてこうやって件数が伸びています。何でも受け入れてしまうと分別が進まない、分別が進まないと市の廃棄物行政、市民の皆さんもの税金の負担等々全てのこと考えると、あまりいいことではないですよ。あと施設の問題です。クリーンセンターはご存じのとおりあんまり広くないです。車でいって駐車スペースが多いところではありません。これが今年間 20000 件の搬入を受けております。例えばゴールデンウィークとか年末とか人が動くような時期、お休みの時期なんかは、ものすごく混雑して、車両等の関係でも危ないのかなというところがございます。せっかく令和 6 年に新体制迎えるにあたって、細かいところを詰めていきましょうと検討しているというところです。値段を上げる話はこの場ではなくてもうちょっと後のところになるのかなと思っております。

○委員 E 今の説明でわかったのですが 1 点だけ。やはり北広は今入れ替わりの町になってきているかと思えます。両親がなくなって、おうちを片付けなければならない、そういう方たちが搬入なさっていることも、たくさんではないでしょうけど結構いらっしゃるかと思えます。いろんなご事情があってもってくと思うのですが、そういう方たちに分別してといても、東京から来て明日には帰らなければいけない、これは慌てて捨てなきゃいけないとかそういう方たちは、正直ほんとは分別しなきゃいけない、100%分別しなければいけないでしょうけど、そういう方たちのところにも目を向けて、証明書持ってくれば受けてあげますとか、そういう緩やかな部分も作っていただけるようお願いしたいと思います。

○会 長 今のお話すごく大事なところで、トータルとして高齢者の方で、例えばもう自分でごみステーションにごみを捨てられなくなった人達はどうしますかとか、片づけごみといますか、高齢の方で終活といますか、そういった終わりを迎えるなかで、物を片づけなきゃいけない、そういうところに関しては特別な枠組みみたいなものがあるべきですし、ここで言っているのは原則論直接持ってくるものに関しては、何でもかんでも持ってこられても困りますよと、平成 21 年で 323 t のものが 31 年に 1551 t にもなっていると、これが問題ですよってことなので、高齢者の方への対策は別途考えていけばいいと思っております。

- 委員 C 周知するのにいろいろな方法でやっているけどなかなか伝えられないところで、例えば高齢者向けにアプリが苦手な方にスマホ講座と合わせてごみ問題を教えるとか、終活でエンディングノートとかを活用しながらごみ問題を教えるとか、子ども向けでしたら、長期の休みのときにごみのリサイクルとか見学ツアーとかと合わせながら周知して、必ず親も来ると思うので巻き込んで周知するとか、ごみだけじゃなくて間口を広げてセットにしたらいいかと思いました。
- 会 長 ごみだけ考えているのではなくて、いろいろなものと組み合わせて考えるってことですね。前にそういう講演会やっている方いましたよね。
- 委員 A 生前整理では 300 人近い方が文化ホール、芸術文化ホールの 2 階の活動室に集まっていたけました。講演会を開始して以来、初めてでした。100 人くらいのところから 300 人、倍以上が集まった。ものすごく逼迫した問題だということを実感しまして、おそらくこれからどんどん増えてくるでしょうし、他の人たちも巻き込んでやるようにしてもらいたいですね。
- 会 長 次回が事業系で、次は広域化で、家庭系の話は全くしないって訳ではございませんので、またお気づきの点がありましたら直接事務局でもいいですし、この会のこの場で言うていただければと思います。それでは次に 4 番目、事務局から次回の開催日時についてご説明お願いいたします
- 事務局 それでは私の方から次回審議会の日程について説明をさせていただきます。次回の開催予定についてですが 8 月の中旬以降の開催で事前調整をさせていただきまして、本日委員の皆様全員出席されておりますので、再度会議の開催前にお聞きをしましたが、まだ予定がたっていないという方もいらっしゃるのですが、今のところ 1 番出資者の多い 8 月の 20 日木曜日 18 時 30 分からが都合がよい日程となっておりますので、この日程を次回の開催予定日としてさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それから、次回の開催、審議会資料につきましても開催案内と一緒に事前に配布する予定としておりますので、合せてお願いいたします。私から以上でございます。
- 会 長 その他にかございませんでしょうか。少し時間過ぎまして申し訳ございませんでした。何も無いようですので、これで第 2 回の審議会を終わりたいと思います。ありがとうございました。

≪ 12 時 05 分閉会 ≫